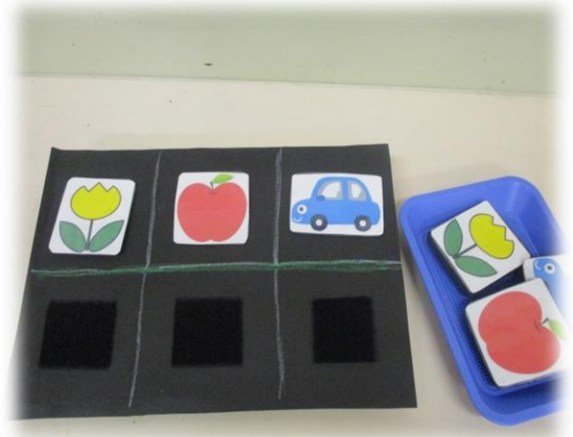




# 研究紀要



## 広島県立西条特別支援学校



研究テーマ

主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり

～教材・教具の工夫を通して～

### 研究の流れ

様々な実態の児童生徒

「主体的な学びの姿」の捉え直し（1年目）

主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり  
～教材・教具の工夫を通して～（2年目）

本年度

児童生徒に付けさせたい力の明確化（3年目）

## 研究の方法

### —授業研究—

- 「主体的な学び」に関する校内全体研修会の実施
- 「主体的な学び」に関する各学部各類型での協議
- 自立活動に特化した研修会
- 教材・教具学部研修会

### —日々の授業実践—

- 自立活動アセスメントシート Ver.3 の活用
- 学習指導略案の作成, 活用による日々の授業実践
- 教材・教具の制作, シートの活用・交流
- OPT・OT等との連携

### —研修会—

- 校内授業研究会
- 公開授業研究会

平成 29 年度に捉え直した本校児童生徒の

## 主体的な学びの姿



### I 類型

自ら課題を見つけることができる  
学び考えることができる  
よりよく課題を解決することができる



### II 類型

意欲的に活動に参加することができる  
意見を出し合うことができる  
よりよい方法を考えることができる



### III 類型

主体的な学びに向かう基礎的活動  
自ら動くことができる  
活動の見通しをもつことができる  
自分なりの意思表示ができる

# 取組

## 自立活動アセスメントシート ver. 3 の活用

改善

- (次年度)
- ・ 学年・学級等での話し合いの充実
  - ・ I 類型児童生徒への活用
  - ・ より使いやすい様式への変更

実態把握シート

- ・ 本校独自のアセスメントを実施
- ・ 新学習指導要領に対応

課題の抽出・  
関連シート

- ・ 課題の抽出①
- ・ 課題相互の関連性を図式化②
- ・ 年間指導目標の設定③  
(個別の指導計画との関連)

授業実践

- (次年度)
- ・ 学習状況の調査
  - ・ 指導に対する評価

評価

自立活動年間指導目標設定に向けた指導すべき課題の抽出・関連整理シート

A: 自立活動アセスメントシート Ver. 3 の実践把握シート (6区分)

6区分の各シートに実態(障害の状態、発達や経験の歴史、興味・関心、生活や学習環境など)を的確に把握するよう、実践の概要のチェックと具体的な課題の記入をする。シートへの記入には、次の点に留意する。

- ・ 児童生徒の全体像を捉えるような実践把握の整理をする。ただし、メモリアリのある整理をする(課題設定の必要分野との関連性があっても、該当の内容のみ記入)。
- ・ 児童生徒が困難なことのみを課題把握の観点にするのではなく、実用や得意としていることなども整理する。
- ・ これまでの学習の状況を踏まえ、学習上や生活上の課題

B: 2または3年後の姿(小学部第2・4・6学年、中学部第3学年、高等部第3学年の終わりまでに付けておきたい)

C: A, Bから抽出した指導すべき課題 ※10個以内にとる

①

②の指導すべき課題相互の関連の整理の図式化  
※ 縦横両士の関係(縦線) ← 原因と結果の関係、→ 相互に関連しあう関係)で表すとともにまを横線等で囲む。また、重要課題には色を付ける。

③

( )部 ( )学年 年間指導目標  
※ 目標の最後に< >で、目標を達成するために必要な項目(関連する項目)を整理して記入する。

## 教材・教具の作成

### ①教材・教具シート

「主体的な学びの姿」を記入し、目指す姿を明らかにする。

自立活動の目標を教材・教具を使いさらに具体的に定める。

実践後の評価をすることで成果や課題を明らかにする。

年に2回行っている研修会で共有し、他教科・領域との連携へ繋げる。



平成30年度「主体的な学び」を促す教材・教具シート (Ⅲ類)		
研究テーマ「主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり」 ～教材・教具の工夫を通して～		
学部・学年・作成者	小学部・2年	写真等
教材名	ぞうくんとおさんぼリュック	
各教科等	表現活動	
教材・教具を使用することによってみられる主体的な学びの姿	主体的な学びに向かう基礎的活動 自ら動くことができる 活動の見通しをもつことができる 自分なりの意思表示ができる	
自立活動アセスメントシートにおける指導すべき課題 ※主に教材・教具に關係するもの	姿勢の傾きに気づきにくく、姿勢の保持が難しい。	
個別の指導計画における学期の目標 ※主に教材・教具に關係するもの	動きの大きな運動を通して、教師と一緒に身体を支えたり、姿勢を変えたりすることができる。	
教材・教具使用の目標	・ 適度な重さを背負って一人でいざり這いをしたり、滑り台を滑り降りたりすることができる。 ・ 重心がずれがちな物を背負い、重心がずれても自分で体幹を使って姿勢を保持し、いざり這いをしたり滑り台を滑り降りたりすることができる。	
使用方法や留意点等	・ 児童の筋力に合った重さにするために、リュックの中に入れる物の重さを調節して、背負わせる。 ・ リュックの胸ベルトをしめ、ずれずにしっかりと背負うことができるようにする。 ・ リュックには、「ぞうくんのさんぼ」に出てくる数種類の動物をマジックテープでつなげて付けることができ、動物の数や付ける順番を工夫し、重心が適度にゆらゆらと揺れるように調節する。	
成果	主体的な学びに向かう基礎的活動ができたか ○ 主体的な学びの姿がみられたか ○ ・ 教師の支えがなくても、ずれた重心を自分で直し、いざり這いや滑り台を滑り降りることができた。 ・ リュックに、500gほどの重さを入れても、姿勢を保持していざり這いや滑り台ができるようになった。 ・ 動物を3つつけて、ゆらゆらと揺れるようにしても、姿勢を正していざり這いや滑り台ができるようになった。	
課題・改善点今後の発展	・ 人形の材質を、すべてフェルトにしたが、それぞれの材質を手触りが違うものにすれば、触覚にも訴える教材になると考えた。	

## ②教材・教具の例



筆記補助具

上肢にまひがある児童が手首をひねらずに文字を書くことができる。



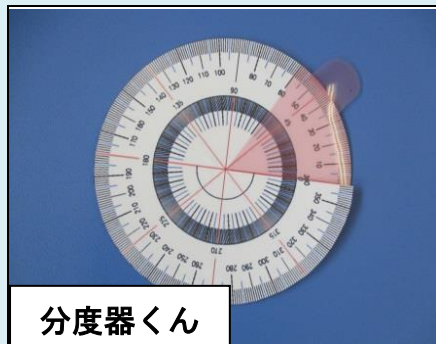
鈴の輪

向かい合って一つの楽器を鳴らすことで、相手を意識することができる。



楽々肘置き

肘の位置を安定させることで、机上での操作を容易にすることができる。



分度器くん

角度という概念を視覚的にとらえ、簡単な操作活動を通して定着することができる。



香り付きクッキー粘土

視覚に障害がある生徒が、作業所で行われる工程を意識して取り組むことができる。



飛ばしてキャッチ

追視することや落下地点を確認することで、見る力を高めることができる。

## 2年目のまとめ

### 2年目の研究の成果

○「主体的な学び」を促す授業づくり

- ・ 自立活動アセスメントシート Ver. 3 の活用
- ・ 教材・教具シートの作成・活用

- ・ 課題を抽出し、課題相互の関連性から児童生徒の目標を明確化することができた。
- ・ 各類型の多くの教科において主体的な学びの姿を意識した授業づくりに取り組むことができた。

### 3年目へ向けた課題

○各教科・領域のつながりを意識した授業づくり

- ・ 自立活動アセスメントシート Ver. 3 から各単元、題材の目標に関する実態のうち「できること」を関連付け深い学びをねらう。
- ・ 単元、題材の目標を達成するにあたって他教科・領域との関連性を明確化する。